言葉とアートを往き来する
前橋に生まれる言葉が生まれる

アーツ前橋館長
住友 文彦

前橋文学館長
萩原 朔美

前橋でアートと言葉が融合する

萩原　言葉は一見地味かもしれない。けれど、アートの目線で文字や言葉に触れると、教科書や雑誌や看板の文字が、今までとは違って見えてくる、展覧会ではそんな体験ができると思う。美術だ、文学だと区切らず、一緒にやるということがすごく大切。文学館、アーツ、そしてシネマまえばしでの同時展開催など、前橋で新しい表現にどんどん挑戦したいね。

住友　アーツ前橋は開館から昨年まで、衣・食・住をテーマに特別展を開催し、アートの視点から暮らしを見つめ、新たな表現や関係性を模索してきました。4年目の今年のテーマは言葉とアート。共同企画展は朔美さんが館長に就任し、ついに実現しました。朔太郎の生きた前橋ならではの、2つの関係性が見どころ。ここでしかできない体験を、ぜひ。

アーツ前橋×前橋文学館　初の共同企画展

「ヒツクリコ　ガツクリコ　ことばの生まれる場所」

Flap-flop, Clap-clop:
A Place Where Words Are Born

問 アーツ前橋 ☎027-230-1144
前橋文学館 ☎027-235-8011

文学と美術の表現を「ことば」を切り口に考える本展覧会。前橋文学館では、萩原朔太郎や萩原恭次郎など地域ゆかりの作家から、コンクリートポエトリーをはじめとする前衛的な活字表現を、アーツ前橋では、活字に留まらない言葉の特徴として、20世紀の前衛芸術からオノ・ヨーコのような現代作家までを中心に紹介します。

日時＝10月20日㈮～来年1月16日㈫（水曜・年末年始を除く）、〈前橋文学館〉午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）〈アーツ前橋〉午前11時～午後7時（入館は午後6時30分まで）

費用＝共通観覧券〈一般〉700円〈学生・65歳以上・10人以上の団体〉350円、高校生以下無料。10月20日・28日㈯・来年1月9日㈫は無料

主な参加作家＝〈前橋文学館〉草野心平、東宮七男、新国誠一、萩原恭次郎、萩原朔太郎、文月悠光、ムットーニ（武藤政彦）、山村暮鳥〈アーツ前橋〉荒井良二、大澤雅休、オノ・ヨーコ、河口龍夫、鈴木ヒラク、山川冬樹

関連イベント

会期後半にもさまざまなイベントを予定しています。詳しくは前橋文学館・アーツ前橋ホームページをご覧ください。

●ムットーニ　からくりミニシアター　上演とトーク
日時＝11月4日㈯午後2時
会場＝前橋文学館
対象＝一般、先着80人
費用＝観覧券

ムットーニ《題のない歌》
（原作・萩原朔太郎）2016年　作家蔵

鈴木ヒラク《Constellation #01》
2016年 紙にシルバーインクと墨汁、アルミニウムマウント　前澤友作氏蔵
©Hiraku Suzuki

●三角みづ紀　詩のワークショップ
日時＝11月11日㈯午後2時
会場＝前橋文学館
対象＝一般、先着25人

●学芸員によるギャラリーツアー
日時＝❶11月18日㈯午後1時30分　❷同午後3時
会場＝❶は前橋文学館　❷はアーツ前橋
費用＝観覧券
申当日会場へ直接

●アーツ前橋ホームページ
http://artsmaebashi.jp
●前橋文学館ホームページ
http://www.maebashibungakukan.jp